

第1回巡回展

埼玉の縄文展



蓮田市天神前遺跡出土黒浜式土器

埼玉地区文化財担当者会

第1回巡回展 埼玉の縄文展
埼玉地区文化財担当者会
プロローグ

縄文時代草創期

縄文時代早期

縄文時代前期

縄文時代中期

縄文時代後期

縄文時代晩期

道具と食料

祭りと装い

エピローグ

プロローグ

長い氷河期がようやく終わりを告げ、盛んに噴煙をあげ灰を降らせていた火山活動も沈静化し始めたころ、現在の宮代町前原付近に土を焼いて器を作ることを覚えた人々がやってきました。今からおよそ12,000年ほど前のことです。

びりゅうきせんもんどき

後に「微隆起線文土器」と名づけられたこの土器が、現在確認されている埼玉地区最古の土器なのです。

その後、気候の温暖化とともに人々の行動も活発となり、生活の痕跡がいたるところに残されるようになります。

今からおよそ5,000年ほど前になると気候の温暖化はピークを迎え、南極、北極あるいは高山の氷河に閉じ込められていた水分が海に流れ出し、日本列島周辺の海水面は縄文時代がはじまったころに比べて、およそ80~140メートルも上昇したと考えられています。これは現在と比較しても2~3メートル高い状況だったと推定されています。埼玉地区では、現在の中川や元荒川などに沿って海が入り込んでいたのです。

縄文人達は盛んに貝^とを採り、魚^とを獲ろうとしていたようです。海を取り囲む台地の上に残された貝塚を発掘調査することでそれらのことが少しずつわかってきました。貝塚に限らず、彼らの生活の痕跡である遺跡を発掘調査すると、土器や石器など彼らの残した生活用具が姿を現わします。

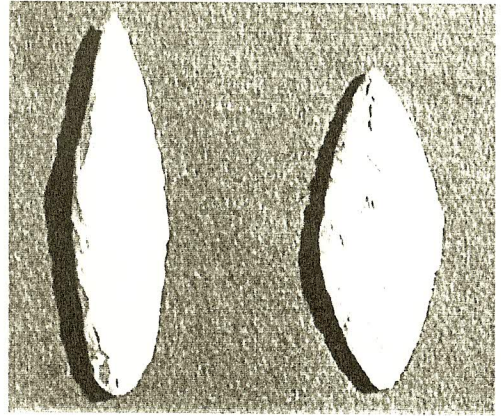
バラバラに出てくる土器片もひとつひとつ丹念に組み合わせて行くことで、もとの形に戻すことができます。彼らの暮らしぶりを復原する作業も同じです。文字を持たなかった縄文人の生活の様子を復原する作業はそう簡単なことではありませんが、発掘調査で得られる様々な情報をひとつひとつつなぎ合わせて行けばきっとできるはずです。

さあ、縄文人の残した道具を手がかりに、いっしょに彼らの暮らしぶりの復原作業に取り掛かりましょう。

縄文時代草創期 (およそ 12,000 年～10,000 年前)

縄文時代早期 (およそ 10,000 年～6,000 年前)

今からおよそ 12,000 年ほど前、人々は粘土を焼いて土の器を作ることを覚えました。縄文時代の幕開けです。縄文時代最古の段階を縄文時代草創期と呼んでいます。この頃作られた土器は埼玉地区では宮代町前原遺跡で数片が見つかっているだけです。同じ頃使われていたと見られる石器が出土している遺跡が他に数遺跡ありますから、今後遺跡数も増え、詳しいことがわかるようになるかも知れません。



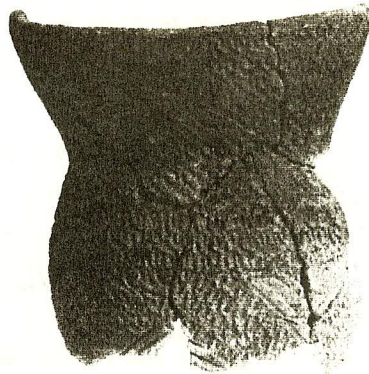
埼玉地区に縄文人の足跡が確実に刻まれるようになるのは、草創期後半から早期初頭今からおよそ 10,000 年ほど前のことです。春日部市の坊荒句北遺跡からはその頃のムラの跡が姿を現わしました。その頃の人々は底の尖った土器を使い弓矢を使って狩りをしていました。

縄文時代前期 (およそ 6,000 年～5,000 年前)

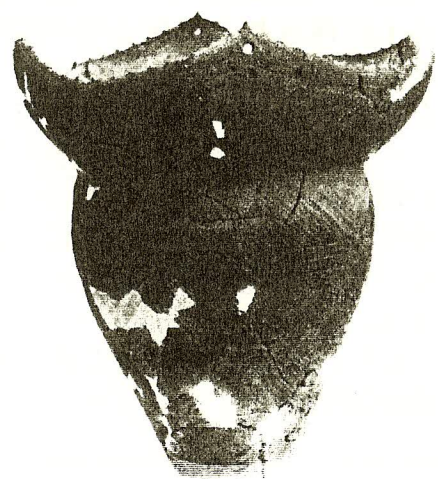
縄文時代という名前が土器に付けられた縄目模様由来していることはご承知のとおりです。土器の模様にも流行廃りがあり、模様は地域や時代によって変化します。およそ 6,000 年ほど前、縄目模様が最も発達した時期があります。この時期に該当する土器に花積下層式、関山式、黒浜式と名づけられた3つのタイプの土器があります。花積下層式は春日部市花積貝塚、関山式は蓮田市関山貝塚、黒浜式は蓮田市黒浜式貝塚群から出土した土器を標識としています。この時代は海が最も内陸まで入り込んでいた時期でもあり、埼玉地区の遺跡数は飛躍的に増えます。また、霞ヶ浦沿岸地域との交流も盛んに行われていたことが窺われます。各地に残された貝塚は当時の繁栄ぶりを今日に伝える証人といえます。



花積下層式 白岡町タタラ山遺跡



関山式 蓮田市宿下遺跡

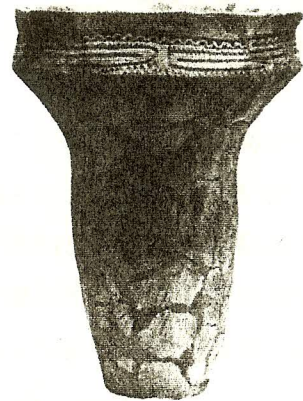


黒浜式 蓮田市天神前遺跡

縄文時代中期 (およそ 5,000 年～4,000 年前)

埼玉地区ではすでに海は退いており貝塚こそ営まれなくなりますが、白岡町山遺跡や蓮田市宿下遺跡、岩槻市黒谷田端前遺跡などのように大規模なムラが営まれるようになります。縄文時代の家の平面形は概ね四角形を基本としていますが、この時期の家は円形が基本です。

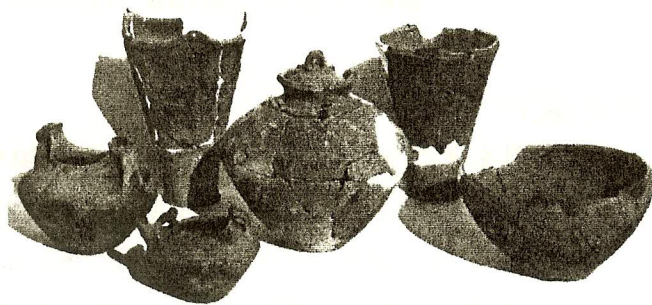
四角い家の場合、家族が増えたりすると「建増し」をしている例がしばしば見受けられますが、円形の家の場合簡単に「建増し」し難い構造であるため結局建替えることとなります。縄文時代中期特にその後半の遺跡数が他の時期に比べて飛びぬけて多い傾向にありますが、これは、人口の増加によるものだけではなく、こうした家の構造上の理由も考慮する必要がありそうです。



中峠式 春日部市坊荒匂北遺跡

縄文時代後期 (およそ 4,000 年～3,000 年前)

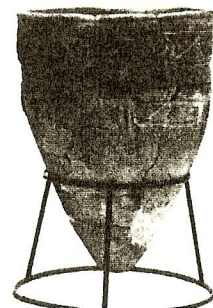
この頃になると土器作りの技術が一段と向上し、薄く堅緻な土器や精蜜な模様を施すものが多く見られるようになります。土器の形にも様々なバラエティーが見られるようになるのも特徴的です。それまでの深鉢、浅鉢、甕等に加えて壺、台付鉢、皿などが作られるようになります。現在の「急須」のように注ぎ口の付けられた「注口土器」が確立するのも、蓋の付いた土器が出現するのもこの頃のことです。土器の形が機能に合わせて分化したことや、計算された精密な模様が描かれるようになったことは、縄文人の暮らしがそれだけ成熟してきた証だとみることができましょう。



堀ノ内式 松伏町本郷遺跡

縄文時代晩期 (およそ 3,000 年～2,300 年前)

縄文時代晩期になると急速に遺跡数が減少します。なぜなのでしょう。ムラを作る場所が台地上から低地に移ったからとか、定住性が強まったため拠点集落に集約されたためなどの理由が考えられますが明らかではありません。この時期の遺跡を発掘調査すると夥しい量の土器が出土します。同時に土で作った耳飾やペンダント等の装身具や「土偶」と呼ばれる土人形や「土版」と呼ばれるお守り札、「石剣」「独鈷石」等用途の明らかなでない遺物が数多く出土します。これらの遺物は縄文人の社会性や「こころ」といった形あるものとして残らない文化を探る上から極めて重要な手がかりだといえることができます。

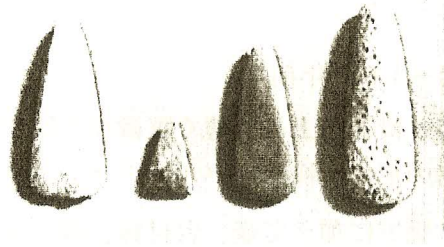


安行3式 菖蒲町地獄田遺跡

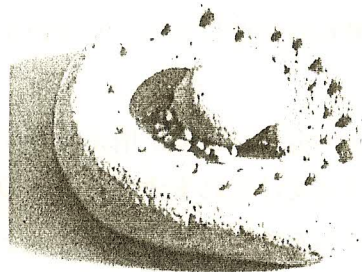
道具と食糧

縄文時代の幕開けとともに画期的な道具が発明されました。弓矢です。それまで罾^{わな}や落とし穴に掛かった獲物を突いたり、至近距離から投げたりしていた槍とは違い、弓で矢を飛ばすという狩猟方法は、猟の安全性を高めるとともに、狩猟対象となる動物の範囲を格段に広げたことは想像に難くありません。縄文人が狩猟民であったことは確かなことですが、狩猟や漁労で得た獲物ばかりが彼らの食膳^{しょくぜん}に並んでいたわけではないようです。それは、鏃^{やどり}よりはるかに沢山出土する磨石^{すりいし}や凹石^{くぼみいし}、石皿等からわかります。これらの道具は、クルミやクリ、トチなど

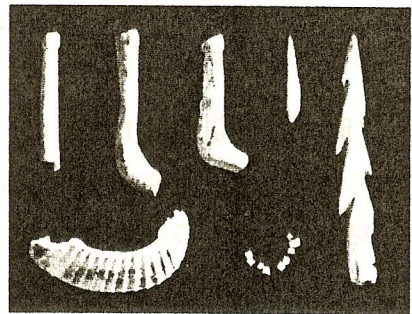
の木の実を粉にする道具です。彼らの主食は木の実や山芋などの根茎類^{こんけいりゆう}だったと想像されます。



磨製石斧 菖蒲町地獄田遺跡、久喜市御陣山・道合遺跡



石皿と磨石 岩槻市掛貝塚



骨格器(ヤス・釣針・貝製品)

祭りと装い

人々が装身具を身につけるようになるのはいつの頃からなのでしょう。遅くとも縄文時代早期後半にはすでにペンダントや耳飾が出現します。これらは交易によってもたらされた滑石^{かっせき}、瑪瑙^{めのう}、翡翠^{ひすい}などの石で作られており、簡単に手に入れることのできる代物ではなかったと想像されます。装身具は誰でもがおしゃれ感覚で身につけたのではなく、ムラのリ

ーダーや呪い師^{まじな}などがその人の立場や権威^{けんい}の象徴として身につけたのではないかと見られます。緑色に輝くペンダントをかけた呪い師は、大自然の力をその身に採り込んで、精霊達とことばを交わしたことでしょうし、土偶は、精霊の魂を宿す依り代^{よりしろ}として儀式の中心的役割を果たしたのでしょう。



土製耳飾



岩版・土版



土 偶

エピローグ

縄文人の残した「もの」から彼らの暮らしぶりを想像してきましたが、いかがだったでしょうか。土器や石器は言わば鍋釜と包丁といった生活用具です。彼らの持ち物は必要最小限、究極のシンプルライフです。もちろん彼らの持ち物はこれだけではないのですが、ステレオとラジカセとウォークマンを持ち、自動車とバイクと自転車を乗り分ける私たちとは明らかに異なる生活です。縄文人は数家族から十数家族程度の集団でムラを作り移動生活していたと言われています。移動といっても、あてどなくさまよっていたのではなく、ある程度の縄張りを持ちその中を季節や狩猟採集の目的ごとに巡回するような生活が想定されます。例えば、スマレの咲く頃はコゴミ山の小屋へ行って月の満ち欠け1回の間留まって山菜採り、その後ムラへ戻ってシジミを採り、紅葉の頃はドングリ森の小屋で木の実採りをして冬支度といった具合です。

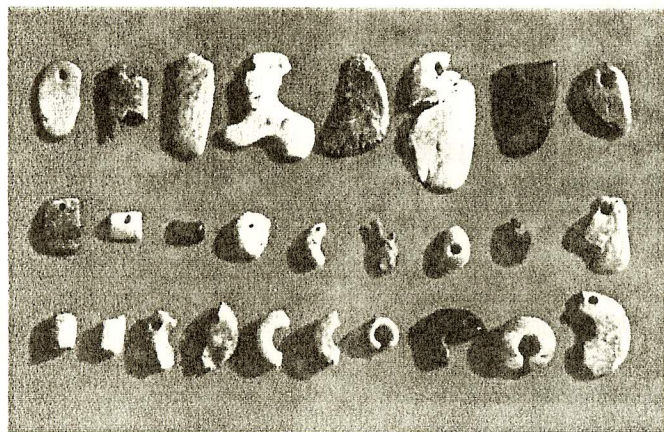
しかし、大自然は恵みばかりをもたらしてくれるわけではありません。何日も何十日も獲物の獲れない日々が続いたり、長雨で木の実の実らない年もあったことでしょう。そんな時彼らは万物に宿る精霊に祈りを捧げ、呪い師や老人の知恵と経験に耳を傾け互いに協力して困難を乗り越えてきたのです。

質素な生活の割には、装身具や呪いに使われた道具が比較的多く残されたのはそのような背景によるものだと考えられます。

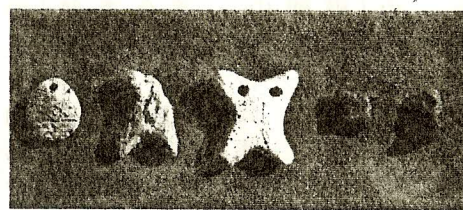
およそ 10,000 年の長きにわたった縄文時代、私たちの祖先達は大自然と共存する術を身につけ、たくましく生き抜いてきました。私たちは、現代社会において発展し続ける文明を享受し縄文人と比較することのできない物質的充足を得ました。その反面自然に対する畏れや、年長者に対する敬意、他の生きものへの慈しみなどの気持ちを忘れつつあるように思われます。

展示をとおして復原してきた縄文人の暮らしぶりや生き様から、私たちの生活や、心がけるべき事柄を再確認していただけたとすれば、これに勝る喜びはございません。

最後までご覧頂き誠にありがとうございました。



石製装飾具



土製装飾具

展 示 資 料 一 覧 (宮代会場)

市町名	遺跡名	資 料 名	員 数
春日部市	坊荒句北遺跡	包含層出土 撚糸文系土器	1
"	"	" 沈線文系土器	1
宮代町	逆井遺跡	第4地点5号炉穴出土 条痕文系土器	1
白岡町	夕夕ラ山遺跡	第35号住居跡出土 花積下層式土器	1
庄和田町	風早遺跡	第2号住居跡出土 関山式土器	1
蓮田市	宿下遺跡	第74号住居跡出土 関山式土器	1
"	天神前遺跡	第55号土壙出土 黒浜式土器	1
杉戸町	木津内東遺跡	第5号住居跡出土 黒浜式土器	1
岩槻市	掛貝塚	第2号住居跡出土 諸磯a式土器	1
"	"	第3号住居跡出土 諸磯b式土器	1
白岡町	茶屋遺跡	第6号土壙出土 諸磯b式土器	1
"	"	第1号住居跡出土 浮島式土器	1
"	夕夕ラ山遺跡	第1地点出土 十三菩提式土器	1
春日部市	坊荒句北遺跡	第8号住居跡出土 中峠式土器	1
松伏町	木郷遺跡	第6号土壙出土 堀之内式土器 (注口土器3、深鉢2、浅鉢1)	6
葛蓮市	地獄田遺跡	安行式土器	3
岩槻市	久台遺跡	中空土偶・耳飾・垂飾	一 式
久喜市	真福寺貝塚	耳飾・石剣	一 式
"	御陣山・道合遺跡	耳飾・垂飾	一 式
"	"	土偶・土版	一 式
葛蒲町	地獄田遺跡	土偶・土版	一 式
"	栢間小塚遺跡	土製垂飾	1
白岡町	前田遺跡	土 錘	1
"	入耕地遺跡	イノシシ形土製品	1
宮代町	逆井遺跡	決状耳飾	1
春日部市	竹之下遺跡	浮子	1
"	西の宮遺跡	浮子	1
久喜市	御陣山・道合遺跡	独鈷石・岩版	一 式
白岡町	夕夕ラ山遺跡	石製裝飾品	一 式
"	"	浮子	1
"	"	石鏃・石匙	一 式
春日部市	竹之下遺跡	尖頭器	1
岩槻市	掛貝塚	石皿・磨石	一 式
杉戸町	木津内東遺跡	打製石斧・磨製石斧	5
"	"	尖頭器	1
葛蓮市	地獄田遺跡	磨製石斧	2
久喜市	御陣山・道合遺跡	磨製石斧	2
白蓮市	高岩採集	尖頭器	2
庄和田町	久台遺跡	ヤス	1
松伏町	犬塚遺跡	釣針	1
岩槻市	真福寺貝塚	釣針・ヤス・貝輪・貝製裝飾品	一 式
"	本郷遺跡	動物遺存体(シカ、イノシシ)	一 式
"	栄光院貝塚	魚骨	一 式
蓮田市	黒浜貝塚	鹿角	一 式
"	"	貝塚出土の貝類	一 式
"	"	第55号土壙剥ぎ取り貝層	1
"	宿下遺跡	遺物出土状況写真	1
幸春日部市	榎野地原遺跡	第1号住居跡遺物出土状況写真	1
庄和田町	坊荒句北遺跡	第10号炉穴貝ブロック写真	1
岩槻市	犬塚遺跡	貝層検出状況写真	1
松伏町	真福寺貝塚	遺物出土状況写真	1
杉戸町	本郷遺跡	第6号土壙土器出土状況写真	1
久喜市	木津内東遺跡	遺物出土状態写真	1
葛蒲町	御陣山・道合遺跡	出土状況写真	2
"	地獄田遺跡	出土状況写真	1

※注 会期によっては、展示替えを行う場合があります。

第1回巡回展 埼葛の縄文展

主催 埼葛地区文化財担当者会

開催会場

◎ 1月9日(土)～1月31日(日)

会場 菖蒲町生涯学習文化センター展示室 菖蒲町菖蒲 85-1
問い合わせ先 Tel 0480-85-1111 (内線 335 社会教育課)

◎ 2月2日(火)～5月9日(日)

会場 宮代町郷土資料館 宮代町字西原 289
問い合わせ先 Tel 0480-34-8882 (宮代町郷土資料館)

◎ 5月中旬～6月中旬

会場 蓮田市役所市民ギャラリー 蓮田市大字黒浜 2799-1
問い合わせ先 Tel 048-768-3111 (内線 267 社会教育課)

◎ 6月中旬～7月中旬

会場 岩槻市郷土資料館 岩槻市本町 6-1-1
問い合わせ先 Tel 048-757-4111 (内線 2439 社会教育課)

◎ 7月中旬～8月

会場 鷺宮町郷土資料館 鷺宮町鷺宮 5-33-1
問い合わせ先 Tel 0480-57-1200 (鷺宮町郷土資料館)